

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点その設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

- a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。
- b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。
- c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いつつその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。
- d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

- a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。
- b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

- a 次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

- b 脱字。
- c 文末の句点の脱落。
* 字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。
- d その他不適切と判断せざるをえない箇所。
- e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。
たとえば「〜とはどういうことか」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。
また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。
* ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。
また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。
- 2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。
- 3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。
- a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。
- b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。
- c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたものの。
- d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 古文あるいは漢文の訳を記述する設問の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。

大問一

問一 各1点・計7点

- 1 痛快
- 2 無縁
- 3 巧妙
- 4 侮辱
- 5 悲嘆
- 6 精度
- 7 淘汰

問二 8点

模範解答

A○4点

B○4点

遠回しな考えや率直に言わない表現を重ねることで真意がよりわかりづらくなるから。

(39字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A アイロニーは文字通りや字義通りのことをストレートに言わないという趣旨の内容が適切に表現されていれば4点を加える。

B アイロニーを重ねるとわかりづらくなるという趣旨の内容が適切に表現されていれば4点を加える。

(伝わらない・認識の制度が下がる等のニュアンスがあれば幅広く許容する)

問三 10点

模範解答

A ○5点

妻の思う快適なオフィスを下水道と劣悪な環境に皮肉り、

B ○5点

妻の夫への不満が適切ではないことを伝えるため。(49字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 快適なオフィスを下水道といったことは「皮肉である」という趣旨の内容が適切に表現されていれば5点を加える。

B (この皮肉は) 妻の夫への不満は適切なものではないことを伝えているという趣旨の内容が適切に表現されていれば5点を加える。

問四 10点

模範解答

A ○2点

虚構と現実との違いや真の現実と仮の現実との違いなど、

B ○4点

既にある現状認識と自分の価値観に基づく認識との間にギャップがある場合、

C〇4点

それを埋める表現をしようとする視線。(79字)

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A 「虚構と現実の違い」「真の現実と仮の現実との違い」という具体的な「違い」の内容について触れていれば2点を加える。
ここに示した両者を記載しても、どちらかの記載でも可とする。

B 現状認識と価値観の認識との間のギャップという趣旨が適切に表現されていれば4点を加える。

C アイロニーはギャップを埋めようとする視線だという趣旨が適切に表現されていれば4点を加える。解説にも記したが「アイロニーは…」という書きぶりであるかどうかは問わない。

問五 15点

模範解答

A〇5点

たとえばアイロニー的な書き換えが究極の真実に行き着いたとしても、そこへ向かおうとして

B〇5点

深い話へ疑いを重ねた結果として認識の精度や適切性が上がったからではなく、

C〇5点

それは偶然生じた認識の変化であること。(95字)

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

A アイロニーが究極の真実に行きつくという条件について適切に表現されていれば5点を加える。

B 認識の精度や適切性が上がったわけではないという趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。
(認識の精度や適切性が上がったりしてもそれは偶然の結果という表現でも許容)

C 究極の真実に行きついたのは偶然であることが適切に表現されていれば5点を加える。

大問二

問一 7点

模範解答

A○3点

B○4点

人はどう生きるかを自ら模索し続けることで出生から死までの生涯を構成すること。(38字)

(別解)

C○3点

D○4点

人生の想定外の喪失を受け入れつつ向き合い方を決め、修正しながら生きていくこと。

(39字)

【A・BまたはC・Dに関して部分採点を行う】

A 人生をどのように生きるか考えることについて適切に表現されていれば3点を加える。

B Aによって生涯や人生が構成されるという趣旨が適切に表現されていれば4点を加える。

C 喪失を受け入れることについて適切に表現されていれば3点を加える。(喪失を経験するでも可)

D Cから修正しながら生きていくという趣旨が適切に表現されていれば4点を加える。

21-1 北大本番レベル模試 国語 採点基準

問一 8点

模範解答

A○5点

B○3点

喪失の現実を徐々に受け入れその後の生き方に向き合い、状況に合わせてようとすること。(40字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 喪失の現実を受け入れて状況に合わせていくという趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

B 「徐々に…ようとする」など時間をかけてだんだんと変化していくという趣旨が適切に表現されていれば3点を加える。

問三 10点

模範解答

A○5点

ものごとはそのうちうまくいくという信念を持ち、

B○5点

自分にできることを模索し、努力し、できることを増やすべきだと述べている。(59字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A つらいことがあっても未来に回復できる、つまり、物事はそのうちうまくいくようになるという信念を持つ、という趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

(未来志向・人生の危機や逆境に適応できる存在能力を発揮等の表現も可)

B 模索や努力をしてできることを増やしていくという趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

問四 10点

模範解答例

A〇5点

喪失の経験は、今までと異なる関心が芽生え、新しい事実や人との出会いなど、

B〇5点

人生を新たな方向に進める初めての活動に取り組みきっかけになること。(69字)

【A・Bに関して部分採点を行う】

A 「喪失によって変化がもたらされること」を解答の柱とし、「今までとは異なる関心ができる」や「新しい出会いがある」といった具体的な内容が書かれていれば5点を加える。

B 「喪失は価値観や生き方を問い直す機会になること」を解答の柱とし、「人生を新たな道筋を見いだす」といった具体的な内容が書かれていれば5点を加える。「機会になる」について「契機」や「きっかけ」という表現が書かれていなければ2点減じて3点とする。

問五 15点

模範解答例

A〇5点

人生の重大な喪失は、最初は受け入れ難いこともあるが、

B〇5点

新たな価値観や生き方を与えてくれるものなので、

C〇5点

私たちは喪失を受け入れ、その後の人生に未来志向で主体的に向き合い人生を歩んでゆくべきだと考えている。(99字)

【A・B・Cに関して部分採点を行う】

- A 喪失とは最初は受け入れ難いが受け入れなければいけないという趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。
- B 喪失は新たな価値観や生き方を与えてくれるという趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。
- C 喪失で得られる未来志向に向き合う生き方をすべきだという趣旨が適切に表現されていれば5点を加える。

第1回 北大模擬試験採点基準 (古文) 2021 合計25点

問一 (3点×3)

a (2点) b (1点)

問一・イ・模範解答例

午後二時ごろに晴れて (3点)

【各部の採点】 3点満点。加算ポイント2箇所。

a 「午後二時ごろに」……2点。「午後二時ごろに」の解答。「午後二時に」だと1点。「午後一時から午後三時の間に」は可。

b 「晴れて」……1点。「(空が)晴れて」の意味。ただこの箇所だけ正解では零点。

問一・ハ・模範解答例

b (1点) a (2点)
この八月に私は死ぬのだろうかとも思う (3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント2箇所。

a 「死ぬのだろうか」……2点。「〜にや」の後に省略されている言葉の補足。「〜であろうか」だけではダメ。

b 「この八月に」……1点。「この月」を具体的に「八月」とする。

問一・ニ模範解答例

a (2点) b (1点)
大騒ぎしているのを、他人事として聞いている (3点)

【各部の採点】 3点満点。加ポイント2箇所。

a 「大騒ぎしているのを」……2点。「ののしる」が「大騒ぎをする・評判になっている」と訳してあること。

b 「他人事として聞いている」…1点 「自分に関わりのないこととして聞く」の意。「他の場所で聞いている」はダメ。

問一(6点)

a (1点)

b (4点)

問一・模範解答

夫婦仲に悩みを抱えながらも言葉に出さず耐え忍んでいる筆者自身には、ひたすら声を挙げて鳴く蝉の声がた
いそう

c (1点)

煩わしく感じられてしまうという心情。(七〇字)(6点)

【各部の採点】6点満点。加点ポイント3箇所。五六字以下の解答は内容が正しくても一点の減点。

a 「夫婦仲に」…1点。筆者が悩んでいる理由が夫婦仲であることが明示されていること。ただしこの箇所だけ正解では加点無し。

b 「悩みを抱えながらも言葉に出さず耐え忍んでいる筆者自分には、ひたすら声を挙げて鳴く蝉の声がたいそう煩わしく感じられてしまう」

…4点。耐え忍んでいる筆者には、耐え忍ぶこともせずひたすら鳴く蝉の声を不快に感じてしまうというように、「蝉」

と筆者の心情の対比がなされているか。和歌の内容が夏の歌ではなく、恋の歌であることに注意する。

c 「という心情」…1点。設問の問いかけに応じた文末。ただしこの箇所だけ正解では加点無し。
「〜と感じている。〜と感じていること」も可。

問三 (5点)

a (1点)

b (2点)

c (2点)

問三・模範解答例

筆者の、言いたいことはすべて夫の方から言ってくれたから、自分からは夫に何も言うことはないという言

葉 (五〇字) (5点)

【各部の採点】5点満点。加ポイント3箇所。四〇字以下の解答は内容が正しくても二点の減点。

a 「筆者の」という言葉」：1点。設問に応じた文頭と文末になっていること。ただしこの箇所だけでは加點無し。

b 「言いたいことはすべて夫の方から言ってくれたから」：2点。私の言いたいことはあなたが話したことと同じだという内容。

c 「自分からは夫に何も話すことはない」：2点。自分からはもう何も話すことはないということ、という内容。

問四 (5点)

a (2点)

b (2点) c (1点)

問四・模範解答例

相撲の還響の準備が済んだら訪問すると約束した日が過ぎたのにもかかわらず、夫はやってこないという

...

(5点)

(五〇字)

21-1 北大本番レベル模試 国語 採点基準

【各部の採点】 5点満点。加ポイント3箇所。四〇字以下の解答は内容が正しくても二点の減点。

a 「相撲の還響の準備が済んだら訪問すると約束した日が過ぎたのにもかかわらず」…2点。夫が訪問すると約束した期日が経過してしまったがという内容。

b 「夫はやってこない」…2点。夫の訪れがないという内容。

c 「ということ」…1点。文末処理。ただしこの箇所だけ正解では加点しない。

四 漢文

問一

各2点×4＝計8点

a 〓おもへらく

b 〓つひに

c 〓たちまち

d 〓けだし

▼いずれも解答通り。

問二

5点

A すなはち 〓 これうしのくらふところとなるも 〓 なほいまだせうくわいせざるなり

●以下のように、三分割して採点します。

① すなはち

1点

② これうしのくらふところとなるも

2点

③ なほいまたせうくわいせざるなり

2点

▼①←②←③の順序になっていない場合は全体として加点数なし。

▼句点「。」の有無は不問。

▼①は解答通り。

▼②は「これうしのくらふところとなる」と読めていれば、句末は「なるも」「なるに」「なり」「なりて」「なりて」などでも可。

▼③は「……せず」でも可。

問三

5点

思うに、／ このことは人間の知恵で理解できる ／ ことではない。

● 以下のように、三分割して採点します。

- | | |
|--------------------|----|
| ① 思うに、 | 1点 |
| ② このことは人間の知恵で理解できる | 2点 |
| ③ ことではない | 2点 |

※①の加点条件は、(1)「按ずるに」を「思うに」「考えてみるに」などと適切に訳していること。また文末に置いて「……と
思う」「……と考えた」などと訳してあっても可。

※②の加点条件は、「人智の及ぶ」を「人間の知恵で理解できる」「人間の知能でわかる」「人の知性で理解できる」などと適
切に解釈していること。単に「人智の及ぶ」「人間の知恵の及ぶ」「人間の知恵が至る」「人智が届く」と直訳していたり、
「人間の知恵で思いつく」「人間が考えられる」など、「人間の知恵で理解できる」という意味を明示できていなかったりし
た場合は不可。

▼「人智では理解できない超自然的現象だ」と解釈できているかどうかのポイント。「人間の知恵で思いつく超自然的
な現象」「人間が考えられる超自然的現象」では、日本語として不自然になるので不可。

▼「このこと」の内容には触れる必要はない。もし「このこと」の中身を明示したもの、「牛に雷が落ち、腹の中から布団と服が出てきて冤罪が晴れた」という本文の内容と大きく異なる場合は**加点なし**。

※③の加点条件は「所に非ず」を「ことではない」などと適切に訳していること。なお「こと」については「(人間の知恵で理解できる)現象ではない」「(人間の知恵で理解できる)出来事ではない」「(人間の知能でわかる)ものではない」など、文意に合うものであれば**可**。

▼なお「人間の知恵では理解できないことである／ない現象である／ない出来事である」は**不可**。「所に非ず」という訓読と合わない。

問四

7点

捜査に行き詰まった蕭儼が冤罪を晴らしたい一心から神に祈ると、雷が牛に落ちてその腹から盗まれたとされる掛け布団と服が見つかり、真相が明らかになったこと。

● 以下のように、三分割して採点します。

- | | |
|------------------------------------|----|
| ① 捜査に行き詰まった蕭儼が冤罪を晴らしたい一心から神に祈ると、 | 3点 |
| ② 雷が牛に落ちてその腹から盗まれたとされる掛け布団と服が見つかり、 | 2点 |
| ③ 真相が明らかになったこと。 | 2点 |

※①・②・③の順序は不問。どんな形であれ、①・②・③の要素に触れていれば可。

※①は「冤罪を晴らしたい（隣人の無実を証明したい）」と蕭儼が神に祈った」に触れていれば加點。

※②は「（神が祈りに応え）牛に雷を落とし、その腹から盗品（冤罪の証拠）が出てきた」に触れていれば加點。「盗品」については「服と掛け布団」でも可（だいが甘くなりますが、「服」「掛け布団」のみでも可）。

※③の加點条件は、「真相が明らかになったこと」「冤罪が晴れたこと」「無実を証明されたこと」に触れていれば加點。

▼ 余計なことが書いてあった場合

- | | |
|-----------------------------|-----------|
| (1) 本文の内容と矛盾せず、解答の内容を変えない場合 | ← 不問。 |
| (2) 本文の内容と矛盾する、論理的に不自然になる場合 | ← 各マイナスイ点 |

21-1 北大本番レベル模試 国語 採点基準

(3) 余計な記述のせいで答案全体が意味不明な場合 ← 全体0点。